

Myツール

日本工具工業会 会報



“ものづくりの価値”

理事 鶴巻 二三男

三菱マテリアルの鶴巻です。昨年より工具工業会の理事を拝命しております。あらためて、よろしくようお願い申し上げます。

我々、工具メーカーとして、常により良い製品をお客様に提供し、コストダウンに貢献・生産性向上の為に、ということでは社会に貢献していく事を目指し、日々新製品の開発やソリューションの提供に邁進しています。我々が工具をつくり続けることで、もっと別な意味で役に立っていることがあるのではないかと、また、違う見地から社会に貢献している価値もあるのではないかと考えることがあります。

サプライチェーンの観点から、一つの工具をつくるためには、多くの人々が関わります。当然、社員全員が直接関係しているとは言うまでもなく、原材料・部品・機械・設備を供給・メンテナンスしていただいている人たち、システム開発者やパソコン製造者、水道・電力などのユーティリティの供給元の方々、関連する裾野は想像以上に広いことがわかります。一般的に、自動車製造は産業の裾野が広いと言われていたが、工具製造も捨てたものではないのではないかと思います。完成した製品を販売する流通に目を移すと、更に波紋の様に広がっていきます。直接、製品販売に携わっている代理店や販売店の方々、製品を運ぶ物流会社の人々、トラックや営業車を製造販売しているの方々、カタログやチラシの作成にあたっては、印刷・製紙会社……とにかく、考えていけばいくほど、この紙面では到底書ききれないくらいどんどん広がっていきます。

まるで、日本国内のみならず世界の全ての企業や世

界中の全ての人々が、我々の工具に関連しているのではないかと錯覚してしまいそうです。

これらの人たちが、我々のものづくりと生み出される製品によって生計を立てていると言ったら、少々言いすぎでしょうか。更に、拡大させると、それぞれご家族もいるでしょう。例えば、元気いっぱい毎日通学している子供たち、既に隠居で余生を充実させているお年寄りなどご家族も我々の工具に係わった収入で生活し、衣食住を形成しています。ものすごく、大切なことを行っているように思えてきて、調子に乗りすぎ、独りよがりかもしれません、我々がものづくりを行い、製品を世に送り出すことで、多くの人々の生活に貢献し、多くの人々に笑顔を与えているのです。

毎日、製品の価値や我々の存在感を効果・向上・削減などの数字で追い求め、目を瞬かせ、頭を悩ませている現業から、一息ついて、こんな身勝手な解釈をつらつらと考えると、責任の重さも感じつつ、我々のものづくりも明るい家庭生活づくりに貢献していると思い、更にはがんばろうという意欲が沸々とわいてきます。

我々のものづくりの価値は、“多くの人に笑顔をお届けし、無限の可能性を秘めていることである”これが私のものづくりに対するある一方から見た評価です。

工具工業会の皆様とともに業界とものづくりを盛り上げてまいり所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(三菱マテリアル㈱執行役員加工事業カンパニーバイスプレジデント)

平成 25 年度支部総会開催される

恒例の支部総会が、下記のように各地区で開催された。各支部長の挨拶のあと、今年度決算見込み、来年度予算の概要および会員毎の会費徴収案の説明が事務局よりあった。また、来年度の通常総会は、地方開催の年で、仙台にて開催予定であるが、そのスケジュールやJIMTOF2014の説明が行われた。総会後は、懇親会に移り、それぞれの支部会員同士で交流会を深めた。

大阪支部総会：3月19日(水)16:00～

三菱マテリアル(株)大阪支部会議室

懇親会：『大阪なだ万』帝国ホテル大阪24F

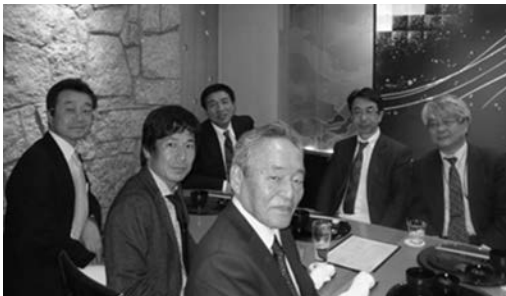
中部支部総会：3月20日(木)16:30～

『加賀屋』名古屋店 JRセントラルタワーズ13F

東京支部総会：3月25日(火)17:00～

土佐料理『衿保希(ねほけ)』丸の内店

明治安田生命ビルB1F



中部支部総会



東京支部総会



平成 26 年新春賀詞交歓会開催

平成26年新春賀詞交歓会は、去る1月8(水)12:00より昨年と同じ東商スカイルーム(東京商工会議所ビル8F)で、来賓、報道関係者および会員合わせて120名のご参加を頂き、盛会に開催された。まず始めに、堀理事

長から新年の挨拶があった後、来賓を代表して経済産業省製造産業局産業機械課課長 須藤 治様から「生産性向上設備投資促進税制」や「中小企業投資促進税制」を大いに活用して欲しいとの挨拶のあと、石川副理事長の発声により乾杯を行い、歓談に移った。

今年の賀詞交歓会は、アベノミクス等により経済情勢が好転しているせいもあり、例年にも増して明るい雰囲気でも進み、最後は渡邊副理事長の関東一本締めで中締めとした。2年続けて東商スカイルームで賀詞交歓会を開催したが、会場からは皇居を見渡せるなど、大変見晴らしのよい会場であったが、東京商工会議所ビルが再開発で取り壊しが決まっており、来年は会場を変更しての賀詞交歓会となる予定である。



堀理事長による新年挨拶



須藤産業機械課長の来賓挨拶



石川副理事長による乾杯の発声



賀詞交歓会の様子



海外拠点だより

OSG SULAMERICANA DE FERRAMENTAS LTDA

杉原 健也

OSGのブラジル進出はグループ内でも比較的早い段階で行われ、1974年11月に販売会社を設立し、1976年に工場を建設し、今年めでたく創立40周年を迎えます。

営業事務所、工場共に、南米最大都市サンパウロから北に100km離れた緑豊かな街ブラガンサ市にあります。ブラジルは発展途上国にありがちな貧富の格差が大きいところで、サンパウロ市などはヘリポート有するオフィスビルが多く立ち並ぶ中、貧民街も隣接しています。しかし、OSGがあるブラガンサ市は治安も良く、環境にも恵まれています。工場敷地は10万平方メートルあり、その中に工場3棟、食堂、事務所、研修施設、サッカーグラウンドが備えられ、植林活動も盛んに行われた結果、工場敷地内ではオレンジ、マンゴー、タケノコも育てています。工場建設当初、周りはユーカリ林に囲まれた長閑なところでしたが、開発が進み、今では多くの住宅に囲まれています。サッカーグラウンド、隣接したシュハスコ(ブラジル式バーベキュー)施設は従業員だけでなく、地域の方にも貸し出しています。

生産品目は、多岐に渡り、ハイスタップ、ハイスエンドミル、ハイスドリル、超硬エンドミル、超硬ドリル、リー

マ、丸駒ダイスを製造しています。これは過去から続くブラジル政府の閉鎖的な市場コントロールによる高い関税にも関係し、ブラジル内で品物を生産、供給することが必要だった経緯もあります。主力生産品目のハイスタップの生産能力は月産35万本あり、ブラジル国内向けだけでなく、北米、欧州にも輸出しています。最近では、航空機用ドリル、リーマの売上の伸びに伴い、特殊品製造能力も増強しています。また、工具再研サービスにも力を入れて取り組んでいます。

工場の強みは、その39年の歴史が物がたるように熟練工の存在です。現在、工場立ち上げ時に日本へ研修に行った作業者が、会社の中でリーダとして成長し、役員、部長、課長として活躍しています。又、ブラジルには日系二世、三世の方が多く、日本の生産システムが受け入れられ易かった背景もあったと感じます。従業員数は営業、工場作業者、合わせて378名までに成長してきました。ここ数年は人件費も高騰しており、老朽化された半自動機からロボット付きの全自動設備への移管を進めています。また、メキシコ工場との連携も図り、品質、コスト、生産性向上を図る取り組みを開始しました。

国内流通は、カタログ製品を主に問屋、代理店経由でしたが、特殊工具が必要とされる自動車メーカ、航空機メーカなどの特定ユーザー向けへの直販も増やす政策を行ない、直販部門は、サンパウロ地区で13名、クリチバ地区で9名体制まで拡大してきました。今後もお客様へのサービス向上を第一に取り組んでいきます。

2014年はサッカーワールドカップ開催、2016年はオリンピック開催と大きな国際行事が計画されているブラジルは、更なる経済的発展が期待されています。自動車業界でも新たな投資計画が発表されており、切削工具の需要も増えるものと予想しています。OSGも陽気で真面目な社員と共に、ブラジル経済発展に貢献し、成長していきます。



(OSG SULAMERICANA DE FERRAMENTAS LTDA
Vice President)

株式会社 真誠

〒430-0841 静岡県浜松市南区寺脇町 745
TEL: 053-441-2677 FAX: 053-441-2922
<http://www.shinsei-tools.com/>

会社紹介と工場 PR



当社は昭和45年の創業以来、静岡県浜松市にて一貫して刃物工具の生産・販売に従事してまいりました。当社の掲げる企業

哲学は「良品は声なくして人を呼ぶ」。つねに物づくりへのこだわりを持ち、時代とともに高度化・多様化するニーズにお応えするため、製品の改良・品質追求を続ける中で今日にいたりしました。

当社の製品群は次の3種類に分かれます。一般鋼や合金鋼から銅、アルミニウムまで、多様な金属材料の切断において抜群の耐久性と高精密の切断を約束する金属切断用のコールドソー。精度と耐久性の向上を追求し、蓄積されたノウハウと最新設備によって開発・製作された品質があらゆるシーンにおいて活躍するダイヤモンド刃物。長年培った技術を投入したチップソー、カッター、ビットなど切削条件・加工方法に適した高精度・高耐久の各種木工用刃物の3種類です。具体的な被削材を挙げるとコールドソーは産業機械や自動車に組み込まれているベアリングのケースや自動車ドアのヒンジ(蝶番)に使用される金属部品、建築資材のような長尺の鋼材を産業用の大型切断機に取り付けて切断します。ダイヤモンド刃物は電動工具に取り付けて外壁用サイディングボードを切断したり、据え付け型の切断機に取り付けてアルミ製の自動車エンジンの一部を切り取る際に使用されたりします。木工用刃物は家具や窓枠などの木工製品に使われる一般木材や集成材ボードを切断する際に大型切断機に取り付けて使用されます。

また当社は近年世界を視野に入れた事業展開に取り組んでいます。アジア各国・欧州・南米では販売のパートナーと協力し販売実績を重ねています。OEM先の開拓とともに、自社ブランドの切削工具も提供してい

ます。グローバルブランドとして世界のニーズに応えることがSHINSEIの次世代ビジョンです。

主工場では製品本体部分の加工および



木工関係品の刃先研磨を行い、隣接した第2工場では鉄鋼関連製品の研磨加工を施しています。従業員数は少ないのですがオペレーターのマルチプレーヤー化とロボットを活用した自動化を組合せて効率よく作業を進めていけるように日々努力と工夫を重ねています。

ご当地紹介

当社の位置する静岡県浜松市は2007年に政令指定都市に指定されました。全国で2番目に広い面積を有する人口約80万人の都市です。東は天竜川、西は浜名湖、南は遠州灘、北は赤石山脈に囲まれ、自然に恵まれた温暖な気候のもとオートバイ、楽器をはじめとした工業製品の生産でも知られていますが全国有数の生産量を誇る農産物も生産しています。温暖な気候を利用して鰻(近年はすっぼんの養殖へ移行して浜名湖周辺では全国生産量の70%のすっぼんを生産しています。)、みかん、ジャガイモや椎茸等の生産が盛んです。B級グルメでは浜松餃子、お菓子ではうなぎパイをご存知の方も多いでしょう。

市内中心部には徳川家康が在城した浜松城が今も残っていて出世城と呼ばれています。今年の夏には出世大名家康君という“ゆるキャラ”が隣接の浜松城公園を散歩する姿も見られました。家康君は先日行われた“全国ゆるキャラグランプリ”で2位を獲得しました。

忘れてはいけないのが浜松市民の大多数が参加し、毎年ゴールデンウィーク5月3日から3日間に亘って催される浜松祭りです。日中は遠州浜での大風揚げ合戦、夜は市中での御殿屋台の引き回しを行い100万人を超える観光客が訪れます。もともとは各戸に生まれた長



男の端午の節句を祝う凧揚げの行事が拡大していったものだそうです。



いつかは花を愛でる生活を夢見て

総務企画委員長 木村 康成

趣味は何ですかと聞かれたら、園芸ですと答えるようにしています。園芸というにはおこがましいと思っているので、聞かれる方も「そうですか」程度に聞き流してもらえたら内心ほっとします。元々はまったく興味がありませんでした。はじまりは10年ほど前に学生時代からの友人に、観葉植物をプレゼントするから選びに行こうと、園芸店に連れられ「ドラセナ」を選びました。そこは富山では大きな園芸店で、種類と量の多さに圧倒されました。ついでに小さなラティスに誘引された赤いツルバラも買って帰り、玄関横に置いておきました。仕事から帰ってきて、それらに目をやると何か和むような気持ちになれました。それがきっかけとなり、はまってしまいました。私の出身は新潟の田舎です、まわりは田んぼと里山程度の小高い山があり、子供の頃の遊びは川で魚やザリガニ釣り、田んぼで草野球といった田舎そのものという時代でした。家は田んぼこそ持っていないではありませんが田植えの頃には親戚の手伝い、自宅の少しばかりの畑の手伝いをやらされていました。家にはバラがありました。品種はわかりませんが高芯剣弁咲きのまさにHT(ハイブリットティー) そのもののような花で、時々学校に持っていくととても喜ばれていたことを記憶しています。そんな潜在意識に玄関脇の小さなバラがスイッチを入れたのでしょうか。それからは、園芸店通いの頻度が上がり、毎月から毎週へ、そして週末は何軒かはしごをするまでになってしまいました。なにせ知



識がない状態ですので、環境にあったもの、手間のかかるものなどまったくわかりません。自分の感性(勘)だけで無差別に次々と集めました。中でも夢中になったのは、ランにはじまり、バラ、クレマチス、クリスマスローズへと順に熱を上げてきました。ランは華やかな花形と圧倒的な花持ちの良さ、種類の多さにあこがれあれもこれもと手を伸ばしましたが、冬場は家の中に取り込むため、サンルームを占領、和室までもジャングルようになってしまいました。バラは香りのあるものが好みます、イングリッシュローズと出会ってからはその香りと花形に衝撃を受けました。しかし、次はベランダがローズジャングルようになってしまいました。クリスマスローズは実生の変異に興味をもち、交配し種から育ててみました。開花まで3年掛かり、もやしのような芽出しから、鉢を大きくしなければいけません。植え替えの度に置き場が増え、しまいには足の踏み場も無いようになってしまいました。そこで目をつけたのが雪割草です。クリスマスローズ同様、雪解け時に可憐な花を咲かせてくれます。さらに株が小さいので場所をとらない、日陰の空きスペースでOK、クリスマスローズ以上に変異が多彩。でもこれも次第に置き場がなくなってきました。

というわけで、我が家は家の中、周囲、ベランダどこもかしこも草だらけの状態になってしまいました。基本は放任主義のものぐさ園芸ですが、最低限の植え替えや水やりは必要になります。夏場には毎日1時間以上はかかってしまいます、家を空けることもできません。あれもしなければ、これもやりたい、でも時間が無い。癒しを求めてはじめた園芸にストレスを感じてしまうことも度々です。いつかは時間を気にせず、花を愛でる生活に身をおきたいものです。たぶん無理でしょうが……。

(株)不二越 工具事業部工具企画部事業企画室長)





日本工具工業会稗史（第二回）

【官民一体の時代】（つづき）

また昭和50～60年代（1975～1985）には輸出振興策の一つとして通産省の主導で各産業団体単位の海外貿易会議が世界各地で開催されていました。目的は輸出増強、貿易摩擦の回避、海外投資への展望等で、当工業会でも昭和55年（1980）9月にシカゴで第一回貿易会議を実施しました。日本からは通産省の棚橋産業機械課長を始め、大和田理事長以下会員会社の有志が参加し、現地では政府出先機関、地元の工具メーカーや工具商社の代表、日本メーカーの現地駐在員なども加わりました。工業会会員からは日本の工具の優秀性をアピールし、現地の工具メーカーや商社からはその国の工具の需要動向などの説明があり盛況裡に終わりました。海外貿易会議はその後も第二回が昭和57年（1982）デュッセルドルフで、第三回が昭和61年（1986）再びシカゴで、第四回が平成2年（1990）ウイーンと計4回開催されました。

『…海外で貿易会議を開くと必ず輸出が増加する…』と言うのが棚橋課長の持論でしたが、確かにその後、切削工具の輸出は増加しました。

【部会活動】

工業会内部の中心活動は部会と技術委員会でしたが、技術委員会が各社の技術者で構成されているのに対し、部会は営業責任者が集まるので以下の通りバトルの連続でした。五部会（ドリル・フライス・ねじ切り工具・歯切工具・バイト）の構成は現在と同じでしたが、昔の部会活動の内容は今とは比べものにならないほど生臭くて過激なものでした。

当時の部会は情報交換の場として毎月開催されていましたが、部会が静かに終わったことは殆ど無く、毎回議論が沸騰し、シェア拡大のためユーザーの取り合いが年中行事でした。長年のユーザーが他社の安売りで取られたとか流通系列が侵されたとか、会員同士が利害対立と調整に明け暮れ、今ではとても考えられないことですが、部会では口角泡を飛ばしながら相手を名指しで攻撃し、怒号が飛び交い、時には憎悪をむき出しにして、会議の途中で憤然として席を蹴って帰ってしまう会員もいて年中壮絶なバトルが繰り返されていました。そのため部会に出席しないと欠席裁判にかかるので各社万難を排して出席して防戦に努め、部会はシェア争いの場に終始していました。特に原材料値上げやエネルギー高騰に伴う販売価格の値上げの時などは大変でした。表向きは各社で値上げ巾や時期を決めるわけですが、これが又シェア争いのチャンスとなりました。すなわち他社に値上げさせておいて自社は値上げの巾を少なくしたり、

時期を遅らせたりして他社のシェアを取ろうとする会員もいて部会は紛糾の場となりました。更に各メーカーの流通（系列問屋・販売店網）が後押しをするので競争はエスカレートする一方でした。

特に大手ユーザー向けの価格値上げは難航し、値上げを交渉したものの受け入れてもらえず、中には10年以上も前の価格が据え置かれたままという極端なケースもありました。そのため小売店の中には問屋から仕入れるよりユーザーから買った方が安いという笑話にもならない珍現象を指摘するところも出てきました。弱肉強食は世の常で切削工具を大量に使ってくれるユーザーはコスト削減のため在来納入品の値上げは中々認めてくれないので、メーカー側は少しでも性能をアップした新製品を新価格で提示して、値上げを図るしかありませんでした。

その他流通向け販売促進策として工場見学招待セールや海外旅行付特売などが頻繁に企画されましたが、それは各社でもやっていることなので、部会では相互に企画が派手すぎないかとの牽制はあったものの大した問題にはなりません。しかし次第にエスカレートしてジャンボ機を借り切った海外旅行招待セールを企画するケースも出てきて大騒ぎになったこともありました。そのため部会では解決がつかず、緊急常任理事会が開催されて検討されましたが、肝心の当事者会社が欠席して空振りに終わってしまい最終的には通産省が仲介に入り、“今後は**不当な過当競争**は慎むこと”という奇妙な日本語の申し合わせがされたこともありました。（“**正当な過当競争**”という言葉があるかどうか判りませんが…）

この会員同士のシェア争いは基本的には供給が必要を上回っていたためですが、各社とも生産調整などは念頭に無いどころか日一杯増産に励んで、ひたすら自社製品の陣取り合戦に邁進していました。一方この動きに一段と拍車をかけたのが流通業界でした。当時は後述の通り、約束手形で商品が簡単に仕入れられたため小資本でも開業が出来たので、老舗で業務をマスターした番頭さんクラスが独立して新規開業するケースが多く、工具販売店が乱立した時代でもありました。そのため何とか安く仕入れようとする販売業界と少しでもシェアを伸ばしたいメーカーが鎬を削って価格競争に明け暮れました。販売業界は自分たちの競争を棚に上げて、市場価格が乱れるのは安値競争をするメーカーに責任があるとの主張がまかり通っていました。そのため製販懇談会（後述）が度々開かれ、建前は混乱した市場価格の是正という事でしたが、実態はメーカー吊し上げの場となり、まさにメーカー受難の時代が続きました。

（Myツール編集委員 細島 圭三）

新社長紹介

日本工具工業会も今年の3月29日で、創立66年となりました。その間、当工業会の会員企業は、日本のものづくりを支えてきました。また、2008年のリーマンショックを経て、産業構造も大きく変化し、会社経営も非常に厳しさを増してきました。当工業会の会員企業でも、ここ数年の間に新社長に交代され、新たな出発をされた会員も見られました。

岡崎精工株式会社
代表取締役社長

岡崎 華 (おがざき はな)

1994年3月 岡崎精工株式会社入社
2012年2月 代表取締役副社長就任
2013年4月 代表取締役社長就任



昨年、岡崎精工株式会社創業80周年を迎えるにあたり、社長に就任しました。私は岡崎精工株式会社創業者岡崎確道の孫になります。入社した当時、工具関係の会社で「社長の娘が働いている」というのはめずらしい事だと思っています。そのせいか社内、社外問わず多くの方から工具について教えてもらうことができました。いまだに業界の常識を「なるほど!」というような未熟者ですので諸先輩方より、若かりし頃と同様ご指導いただけましたら幸いです。

抱負としては社員一人ひとりの取り柄を活かした会社作り、そして先代社員も含め先代から受け継いだ会社を次世代へきちんとバトンタッチできるように現在のメンバーで日々学習、努力です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

昨年、当工業会では、奇しくも2社の会員企業で女性社長が誕生しました。アベノミクスでいう女性の活用どころか、先頭に立って会社をリードする立場で頑張っておられます。今回は、2名の方を紹介させていただきます。今後も機会ある毎に新社長をご紹介させていただきたいと思えます。

株式会社田野井製作所
代表取締役社長

田野井 優美 (たのい ゆみ)

昨年2013年11月3日の創業90周年を機に、代表取締役社長に就任いたしました、株式会社田野井製作所 田野井優美です。

平素は工具工業会の皆様には大変お世話になっております。私は12年前の2002年に当社に入社いたしました。長年海外輸出業務に携わっておりましたが、2009年リーマンショックを機に、前社長(現会長)が今までと同じことをしていたのではダメだと決意されたことで、取締役副社長に指名され、昨年社長就任となったわけです。

まだまだ知識・経験ともに至らぬところだらけですが、“人づくり、人財づくり”を自分の最大の仕事と認識し、強固な組織作りをめざし、お客様のお役に立てる従業員をたくさん育てていきたいと思っております。

今後も皆様はじめ、多くの方々と“人と人のつながり”を大切にして社業に邁進してまいります。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



平成26年度環境賞(第8回)募集と環境調査票提出のお願い

平成26年度も日本工具工業会環境賞貢献賞の募集を行います。大賞と特別賞は、環境調査票を提出頂き、そのデータを集計して、候補会社を環境委員会が推薦致します。そのため、会員各位は環境調査票(平成25年度データ)の提出をお願い致します。未だ、環境調査票を提出されていない会員は、今年からの提出を是非お願いします。また、環境賞の表彰式までのスケジュールは、次のようになります。

- ・回答用の環境調査表を各会員へ送付(5月末)
- ・各会員から事務局へ環境調査票の提出(6月末まで)
- ・環境委員会が環境賞 大賞、特別賞、貢献賞の受賞候補会社を選定
- ・第2回理事会(10月30日)で受賞会社を決定
- ・秋季合同部会開催日(11月下旬予定)に環境賞表彰式で受賞会社を表彰

平成26年度通常総会のお知らせ

平成26年度通常総会は、下記要領で開催予定です。今年度は、地方開催の年であり、東日本大震災復興の願いも込めて仙台の秋保温泉で開催予定です。また、総会に先立って『トヨタ自動車東日本(株)宮城大和工場』の見学を予定しています。翌日は、恒例のよしみ会ならびに世界遺産『中尊寺』観光等も予定していますので、是非多くの会員様のご参加をお待ちしています。

○平成26年度通常総会

日 時：平成26年6月5日(木) 15:30～
場 所：秋保温泉 伝承千年の宿『佐勘』
宮城県仙台市太白区秋保町湯元字薬師28

○よしみ会

日 時：平成26年6月6日(金)
場 所：東蔵王ゴルフ倶楽部 宮城県柴田郡川崎町川内字西山8

○観光

日 時：平成26年6月6日(金)
訪問地：狛鼻溪、中尊寺、毛越寺

特殊鋼工具 平成25年暦年生産額実績

(単位：百万円、%)

品 目	平成24年 生産実績		平成25年 生産実績					
	年間合計	前年比	1～6月合計	前年同比	7～12月合計	前年同比	年間合計	前年比
ドリル	16,813	90.5	7,901	86.6	8,941	116.3	16,842	100.2
ミーリングカッタ	9,348	94.5	4,209	89.9	4,451	95.4	8,660	92.6
ギヤカッタ	10,602	101.2	4,614	82.7	4,797	95.5	9,411	88.8
ブローチ	12,278	103.5	6,450	107.0	6,718	107.5	13,168	107.2
タップ・ダイス	32,231	103.4	13,429	81.2	13,544	86.3	26,973	83.7
リーマ・バイト	3,719	105.7	1,735	91.9	1,746	95.3	3,481	93.6
合 計	84,991	99.4	38,338	87.4	40,197	97.7	78,535	92.4

(出典：経済産業省機械統計)

ソリッド切削工具(ハイス+超硬)平成25年暦年生産額実績

(単位：百万円、%)

品 目	平成24年 生産実績		平成25年 生産実績					
	年間合計	前年比	1～6月合計	前年同比	7～12月合計	前年同比	年間合計	前年比
ドリル	23,554	92.0	10,712	85.2	12,259	111.7	22,971	97.5
ミーリングカッタ	21,267	91.9	10,845	101.5	11,145	105.3	21,990	103.4
ギヤカッタ	10,095	101.4	4,334	81.9	4,529	94.3	8,863	87.8
ブローチ	11,019	104.9	5,765	107.3	5,982	106.0	11,748	106.6
タップ・ダイス	35,410	104.0	14,556	79.5	14,712	86.0	29,268	82.7
リーマ	268	92.7	233	159.4	367	300.4	600	223.6
バイト	2,430	104.2	1,121	90.2	1,182	99.6	2,303	94.8
その他切削工具	348	64.6	170	94.6	163	96.6	332	95.5
合 計	104,392	98.1	47,736	88.7	50,339	99.5	98,075	93.9

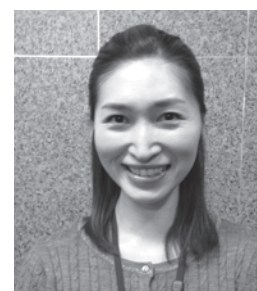
(出典：日本工具工業会会員統計)

新編集委員自己紹介

市東 有希子 (三菱マテリアル株式会社)

このたび、Myツール編集委員になりました三菱マテリアル(株)の市東有希子です。歴史のあるMyツールの編集に携わることが出来、光栄です。これから工業会について勉強し、会員の皆様に楽しんで頂ける紙面作りをしたいです。

微力ながらも頑張りますので、よろしく願いいたします。



編集後記

4月に入り、東京では今、桜が満開です。桜は、春を告げる代表的な花だと思っていましたが、世界では様子が違うようです。例えば、オランダはチューリップ、イタリア、フランスはミモザ、スペインはアーモンドの花など、所変われば品変わるということでしょうか。

桜は、やはりソメイヨシノ(染井吉野と書くようです)。日本人の心情にぴったりの花でしょう。一挙に咲いてそして一挙に散る。満開の桜を見て、桜吹雪の散りざまを見る。それも酒を酌み交わしな

がら。日本人として生まれて良かったと思う瞬間ではないでしょうか。

年度始め、満開の桜を見ていると、新たな気持ちでこの一年頑張ろうという気にさせてくれます。4月からの消費税アップで、経済は暫く後退するとの予想もありますが、出来るだけ早く回復して良い年度となるよう期待しています。そして日本工具工業会の会員皆様の一層の飛躍をお祈りしています。